

文芸ひろば

詠歌の紹介

千代田俳句同好会

春霞入江に白き船の影
さはさほと山の風きて鯉幟
湖が小さく見えて山桜
水の音して山寺の花蘇枋
草餅は里の風物恋ひしかり

山内勝昭
飯沼礼子
大塚隼人
大西周
加藤貞江

紫陽花俳句会

ふらふらや靴のきこゆ黄の帽子
行けと行けと果てなき程の桜花
田を起す人ちらほらと寡黙なり
湖の香をほかど吐くや蜆汁

飯田功
久保慶悦子
車田きみ
福田宏通

出島短歌会

たちねの母の招きに誘われて白雲の中しほしの午睡
親子さん花粉症なり紫蘇の葉にかぶれて顔を腫らして笑う
バスの旅ひたすら走る首都高と駅伝コースはこね路の坂
春の夜一針にこにハッする夫が残したひとりの刻を

飯島ヒロエ
岡田恭子
須崎三代子
仲谷香代子

投稿作品

田の面吹く風は冷たく宵過ぎて薫る窓辺の梅の一輪
雪入の山櫻咲く里に住みわめて暮らす喜びを知る
山頂の岩の間へ寄り添って立ちぼうすみれ今年も咲けり
ひとり暮しも気楽で好いと姉が言う何見据えてか虎視眈眈と
当る風爺の頭をすべり落ち
諸鳥の啼き声背に春惜しむ

活野はつ子
石塚清
中島良平
菅谷味子
やまぐちいさむ
扶美世

▶投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。6月2日(日)までに情報広報課(〒300-0192 大和田562番地)へお願いします。
なお、応募多数な場合には掲載されない場合がありますのでご了承ください。



Camera Report



フォトアルバム

第27回 かすみがうらマラソン 兼国際盲人マラソン

4月16日、第27回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンが行われました。

桜の舞い散る春らしい風景でランナーを迎えることができた今大会。当日は、夏のような日差しになりましたが、沿道の声援やかすまら応援川柳などがランナーの体をひと押ししている印象でした。もちろん、今年も私設エイドのおもてなしは健在。

ランナーと沿道からサポートした方の笑顔が光る熱い1日でした。



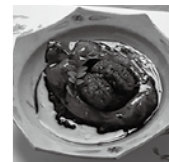
桜をバックに走るランナーたち / ランナーとハイタッチする子どもたち
思い思いにハイポーズ！
沿道から手作りうちわでランナーをお出迎え
お揃いのウサ耳カチューシャとメガホンで声援に熱が入ります
力強い走りて応援に応えるランナーたち
応援川柳が沿道で目を引きまします
私設エイドのおもてなしでエネルギー再注入！
ランナーへの差し入れは笑顔とともに



かすみがうら市のジオ食

日本ジオパーク認定記念！ 筑波山地域ジオパーク シリーズ②

鯉の旨煮



霞ヶ浦の鯉は、春から初夏にかけて産卵のため小河川を遡上していきます。これを地元では「つこみ」と呼んでいます。「つこみ」の際の鯉は、お腹に卵をもつためさらにおいしく、この鯉を捕獲するための道具として竹で編んだ「おげ」が使用されていました。

■全国一の養殖生産

霞ヶ浦の鯉は、1964年(昭和39年)茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所によって網生養殖殖業が導入されたことから生産量も順調に伸び、1972年(昭和47年)には3741トンとなり、全国一の鯉生産地となりました。しかし、現在は淡水魚離れや地元消費の低下から、鯉を含めた霞ヶ浦魚食文化の再構築が課題となっています。

■霞ヶ浦八珍の提案

鯉は、豊富なビタミンB1、良質なたんぱく質があり、滋養強壮・疲労回復に効果的です。国内の鯉は、長野県の佐久鯉や山形県の米沢鯉が有名ですが、これらと同様に霞ヶ浦の鯉料理を再び活気あるものに導きませんか。霞ヶ浦の八景(すばらしい景色八カ所)と八珍(珍しく豪華な八つの料理)の選定で霞ヶ浦が育む魚をブランド化(湖山の宝)し、かすみがうら市のジオ食としてPRしていけたらと思っています。(深井 征一郎)

■歴史博物館

☎029(896)0017